

Kagawa Plan2025

2023 年度 事業計画

学校法人 香川栄養学園

目次

【建学の精神と将来像】	③
1 教育改革	④
(1) 女子栄養大学	④
事業目標	④
中期計画コード	④
目標値	④
活動概要	④
所管部署（委員会）	④
(2) 女子栄養大学短期大学部	⑨
(3) 香川調理製菓専門学校	⑪
事業目標	⑪
中期計画コード	⑪
目標値	⑪
活動概要	⑪
所管部署（委員会）	⑪
2 法人改革	⑬
(1) 人材育成と組織体制の整備	⑬
事業目標	⑬
中期計画コード	⑬
目標値	⑬
活動概要	⑬
所管部署（委員会）	⑬
(2) 附帯・補助活動事業および収益事業の整備	⑬

事業目標	13
中期計画コード	13
目標値	13
活動概要	13
所管部署（委員会	13
(3) ガバナンス・情報公開の整備	17
事業目標	17
中期計画コード	17
目標値	17
活動概要	17
所管部署（委員会	17
(4) 危機管理体制の整備	17
事業目標	17
中期計画コード	17
目標値	17
活動概要	17
所管部署（委員会	17
(5) 校舎・施設整備	17
事業目標	17
中期計画コード	17
目標値	17
活動概要	17
所管部署（委員会	17
3 財政改革	18
事業目標	18
中期計画コード	18

目標値.....	⑱
活動概要.....	⑱
所管部署（委員会）.....	⑱
予算編成にあたって.....	⑲

【建学の精神と将来像】

建学の精神	食により人間の健康の維持・改善を図る。
使命・目的	故香川昇三の遺志に基づき、国民の栄養生活改善を通じて生活の合理化を図り、もって日本文化の振興に寄与するため、教育基本法及び学校教育法に従い学校教育を行うことを目的とする。
教育理念	栄養学に基づいた食を通じて、建学の精神を実践できる専門家を育成する。
スクールモットー	食は生命なり
学園の将来像	<p>学生・生徒の確保と安定的な経営基盤を確固たるものとし、建学の精神（「食により人間の健康の維持・改善を図る」）具現化のために「食と健康」に関わるさまざまな課題を解決できる発信をしていく。</p> <p>◆「安定した運営」</p> <p>1) 安定した財政運営の学園 2) 将来構想を実現できる基盤を備えた学園</p> <p>◆「発信できる学園」を学園の中期ビジョンとして以下を目標とします。</p> <p>1) 教育と研究の成果を社会に還元できる学園 2) コンプライアンスを確立している学園 3) 情報共有できる学園 4) 情報公開できる学園</p>
第二期中期計画の基本方針・重点項目	<p>第一期中期計画の基本方針を継続し学生・生徒の確保を基本として収入の多様化を図り、一方で人件費をはじめとする支出の効率化を図り学園経営を行う。また、学校法人の社会的な公共性を鑑み学園事業における社会的責任（CSR）を全うすることにより、次世代社会の発展に貢献する。</p> <p>第二期中期計画の重点項目：学校法人香川栄養学園は基本方針を達成する為、「教育改革」「法人改革」「財政改革」の3つの改革を設定し実施する。</p> <p>【1】教育改革：栄養学のパイオニアである本学の教育を発展させると共に教育を支える研究環境、教育支援環境の整備も平行し実施する。</p> <p>①カリキュラム改革②入試改革③学生支援拡大④研究時間の確保⑤外部資金の確保⑥FD/SDの充実</p> <p>【2】法人改革：大学院・大学、短大部、専門学校の教育事業および生涯学習・附帯事業、収益事業の事業部の改革を実施する。</p> <p>①人材育成と組織体制整備②附帯・補助活動事業および収益事業の整備③ガバナンス・情報公開・危機管理整備④校舎・施設整備⑤卒業生ネットワーク・社会連携</p> <p>【3】財政改革：18歳人口減少期における学園財政の改革を実施する。</p> <p>①財源確保②支出見直しと重点配分</p>

1 教育改革

(1) 女子栄養大学

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
<p>【カリキュラム改革】</p> <p>①入学定員割れをしている学科等のカリキュラム・教育内容・コース内容等の見直し</p>	<p>教学 A-2</p>		<p>①学部長、学科長、教務学生部長をはじめ関係教職員で、現状把握並びに課題の共有及び解決への道筋をつけるべく協議を行う。</p>	<p>学科会議、学科長会議</p> <p>坂戸教務学生部（学部教務課）</p>
<p>【入試改革】</p> <p>①定員の確保（大学院）</p>	<p>教学 A-3</p>	<p>修士課程入学定員</p>	<p>大学院修士課程の入学定員の確保に向けて、特に学部からのストレート進学を促進を図るために、学部生の新学期ガイダンスにおける大学院進学に向けての周知及び学部生向けの大学院説明会を実施する。</p>	<p>大学院研究科委員会</p> <p>坂戸教務学生部（大学院教務課）</p>
<p>募集の強化</p>	<p>教学 A-3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校内ガイダンス参加 320 校 対応者数 3,000 人 ・ 会場ガイダンス参加 60 会場 対応者 650 人 ・ オープンキャンパス参加数(保護者除く) 坂戸 2,500 人 駒込 350 人 	<p>①高校生・高校現場との Face to Face の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校内ガイダンス、会場ガイダンスについて、北海道・東北・甲信越までのエリアを対象に実施継続し、オープンキャンパスへの導引へと繋げる。 ・ 高校訪問による高校教員との情報共有化を図り、信頼関係を一層高める。 ・ オープンキャンパスについては、坂戸 8 回、駒込 7 回を開催し、各学科の特徴および学びの内容の理解を高め出願へと繋げる。 <p>②WEB・SNS・広報専門誌からの情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受験生応援サイト (HP) を通じて各学科専攻の最新情報を発信する。 ・ 学内で日々起こりうる教育研究成果や学生生活の様子を受験生応援サイト内でもタイムリーに更新できるようにする。 ・ LINE 登録者へ向け、各種イベント、メディア情報について随時発信する。 ・ 既存の独自リーフレット(商品開発特集、スポーツ栄養、エイダイ navi、各種 DM)の継続し、タイムリーな情報提供を広く行っていく。 ・ 新規で、入試ガイドブックを作成し、令和 6 年度募集より実施する、総合型選抜『栄大スカラシップ』を全面に出し、本学の入試改革を PR する。 <p>③学内での情報共有の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学科と情報共有化を図り、最新の情報発信を高校現場へ発信していく。 ・ 広報部との情報の共有化を図り、ステークホルダーに向け認知を図る。 <p>④HP のリニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デザインを一新し、発信された情報をより簡潔に取得できるようにする。 <p>⑤在学生の可視化【学生サポーターの活用（スタッフとしての強化）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパスにおいて対応する学生への指導を強化するとともに、HP や本学独自の紙媒体等において在学生からの情報発信を強化する。 	<p>入試広報課</p> <p>入試委員会</p>

<p>入学生の確保</p> <p>入試改革</p>		<p>入学生の確保</p>	<p>・オープンキャンパスにおいては、学生が学科や学生生活についてPRする場を作るとともに、高校生と直接話せる機会をより多くし、本学で学ぶことに対してのリアリティを実感してもらう。</p> <p>⑥オープンキャンパス改革</p> <p>・新規企画として、化学基礎・生物基礎の学習の仕方を本学教員がレクチャーし、本学入学希望者の基礎学力の向上と定着を図る。</p> <p>ステークホルダーへの認知強化を図り、教育方針を十分理解した入学者の確保を目指す。</p> <p>①前年度入試に実践栄養学科へ総合型選抜導入に続き、2024年度は総合型選抜にスカラシップ型の入試（栄大スカラシップ）を導入する。</p> <p>刻々と変化する入試情勢を見極め、本学全体で年内入試重視の姿勢を示し、素養ある学生のさらなる早期獲得と定員維持を図る。</p> <p>②定員確保維持の観点から最重要となる指定校の選定について、高校現場の現状を十分考慮しながら継続して検討を図る。</p> <p>③今後の入試改革については、動向を見極め大所高所の視点で継続して検討を図っていくが、早期に進学先を確定させたいという受験生のニーズが高まる中、年内選抜と年明選抜について、それぞれ見直しを行う。</p>	
<p>【学生支援拡大】</p> <p>①図書館で採用している図書分類表を日本十進分類法新訂10版への移行</p> <p>②電子書籍の利用促進</p>	<p>教学 A-4</p> <p>A-5</p>		<p>①昨年度に引き続き、本学で採用している日本十進分類法新訂7版（1961年刊行）から最新の最新の新訂10版（2014年刊行）へ移行し、現在の社会情勢を反映した図書の分類に切り替えることによって、利用者の利便性をさらに高める。</p> <p>②2020年度に利用を開始した電子書籍について、さらなる利用促進を行い学外での学修支援を強化する。具体的には通常のガイダンスの他、ミニガイダンスやポスター形式の購入リクエストを実施予定。</p>	<p>図書館（大学図書館課・駒込図書館課）</p> <p>図書館（大学図書館課）</p>
<p>【学生支援拡大】</p> <p>メンタルケアの充実</p>	<p>教学 A-4</p>	<p>・保健センター看護師、養護教諭、校医、産業医、精神科医の週あたりの面談回数合計</p> <p>（坂戸）</p> <p>2021:3件/週</p>	<p>①学び方・働き方の多様化にともなうメンタルケアを充実させる。</p> <p>②健康上支援を要する学生・教職員を的確に抽出し、情報共有ツールを活用しながら早期に対応する。</p>	<p>保健センター</p>

		2022:4件/週 2023:5件/週 2024:6件/週 2025:7件/週 (駒込) 2021:1件/週 2022:2件/週 2023:3件/週 2024:4件/週 2025:5件/週		
健康情報収集・管理・共有の効率化と活用	教学 A-4	・保健センターマイページのアクセス件数合計 (坂戸・駒込共通) 2021:10件/週 2022:20件/週 2023:30件/週 2024:40件/週 2025:50件/週 ・情報システム達成率% 2020:50% 2021:60% 2022:70% 2023:80% 2024:80% 2025:80%	①健康調査のペーパーレス化(情報収集効率化) ②保健センターマイページの拡充と継続可能性の確保(管理の効率化) ③保健センターマイページによる情報共有の全学的浸透(共通の効率化と活用) ④情報システム達成率は現状60%と想定し、2025年度までに完了させる。	同上

<p>【学生支援拡大】</p> <p>①学生ポータルシステムの活用</p> <p>②iPad 必携化への備え（坂戸 i パーク）</p> <p>③チャットボット利用定着</p>	<p>教学 A-4</p>		<p>①不確実なメール通知に頼らない事務部署等からの一斉通知手段として、利用を促進する。また紙媒体による掲示を極力電子化し、ポータルシステム経由で閲覧する運用手順を構築する。</p> <p>②技術支援体制、印刷環境、充電環境を整備する。</p> <p>③必要な情報に到達するための入り口としてコンテンツを整備し、チャットボット登録場所（出現場所）を再考する。</p>	<p>情報・ネットワーク課</p>
<p>【学生支援拡大】</p> <p>①女子栄養大学学生支援センターの設置</p>	<p>教学 A-4</p>	<p>①10月1日設置</p>	<p>①「障害者差別解消法」の施行に伴い、障がい者への「合理的配慮」が義務化されたことを受け、障がいのある学生及び障がいに準じた問題を有する学生に対する支援体制の中核として、専門的知識を有する常勤職員1名を採用し、関係の医師やカウンセラー及び各部署との連携協力による全学的な学生支援体制を構築する。</p>	<p>学生生活委員会 保健センター 坂戸教務学生部 総務部</p>
<p>【学生支援拡大】</p> <p>②学生相談室の充実</p> <p>③学生ヒアリング調査の実施</p> <p>④大学独自の奨学金の新設</p>	<p>教学 A-4</p>	<p>③前後期各2回実施 ④6月1日施行</p>	<p>②上記学生支援センターと連携して、学生が抱えている悩みや問題を解決し、有意義な学生生活を送れるように取り組む。</p> <p>③調査を実施し、大学の教育及び学生生活の改善に取り組む。</p> <p>④学生の福利厚生を向上させるとともに、競合大学との差別化を図り学生募集に活かす。</p>	<p>坂戸教務学生部（学生生活課）</p>
<p>【研究時間の確保・外部資金確保】</p> <p>外部資金獲得に向けた研究力強化のための体制整備</p>	<p>教学 A-5、A-7</p>		<p>学長室会議の下で、研究推進・評価の体制を整え、具体的な行動目標を設け、評価を行う仕組みを導入する。</p>	<p>学長室（学長事務課、研究支援課）</p>
<p>【社会還元・貢献・発信】</p> <p>SDGs に着目した社会連携活動の推進・発信</p> <p>①本学の魅力や特徴・動向を伝える認知度向上の情報発信</p> <p>②卒業生の働く姿を通じて本学の魅力を発信</p> <p>③教育支援活動を通じて栄養学の魅力を発信</p>	<p>教学 A-7</p>		<p>本学の教育・研究分野及び社会連携活動における取組を SDGs の各目標に関連させ、収集・整理し、学園 HP 等で積極的に発信する。</p> <p>①各学科・各部署との情報共有を図り、HP・SNS を通じて本学の特徴や最新の動向を情報提供・情報発信する。</p> <p>②学園及び付帯施設等の HP 掲載内容を企画・調整し、問題点・課題点を抽出しながら更新・改善を行い、コンテンツの中身を充実させるとともに、それらに対応する体制づくりを検討する。</p> <p>③社会で活躍する卒業生の情報を収集・整理し、様々な仕事に関わる卒業生の姿を紹介し、学生生活の活動の充実に繋がる情報として発信する。</p> <p>④香川綾記念講師派遣事業による教育支援活動の実施内容を整理・発信するとともに、高等学校等への学園の動向を伝える機会として活用する。</p>	<p>広報部（社会連携課、学園広報課） 社会連携推進委員会 広報部（学園広報） HP 運営委員会</p>

<p>【FD/SD の充実】</p> <p>①教員人事計画の策定に備えた教員配置の見直し・充実</p> <p>②情報セキュリティ教育（e-Learning）の実施</p>	<p>教学 A-8</p>		<p>①大学教育の魅力向上のため、専門領域と教員配置の実態を把握し、専門領域の充実と教員確保の見直しを検討する。</p> <p>②情報セキュリティ基礎の e-Learning 研修を実施する。</p>	<p>学長事務課</p> <p>総務課、情報ネットワーク課</p>
<p>【教学組織マネジメントの改善】</p> <p>①学長室会議の機能の充実</p> <p>②教学マネジメント体制の整備</p> <p>③BI ツール利用環境整備</p>	<p>教学 A-9</p> <p>教学 A-2、A-9</p>	<p>①開催回数 10 回以上／年度（実績：R3 1回、R4 7回）</p> <p>②令和5年度 新規委員会の設置</p>	<p>①学長室会議の運営方法を見直し、定期的に開催することで、教学の方向性を協議し、それに基づいた取組みを推進する体制を構築する。</p> <p>②内部質保証体制の整備を行い、自己点検・評価作業を効率的に実施できる仕組みを整えとともに、IR 推進の活動の充実を図る。</p> <p>③Tableau 安定運用のための人的リソースを確保する。</p> <p>③-②Tableau の利用促進のため、ユーザライセンスを現状の 15 から 25 程度に拡張する。</p>	<p>学長事務課</p> <p>情報・ネットワーク課</p>
<p>①駒込就職課との業務連携</p> <p>②キャリアプログラムの変更</p>	<p>教学 B-2</p>		<p>①大学・短大間では、業務の親和性が非常に高く、共通項目での仕事が多い。双方の業務を洗い出し、可能な部分を選択・集中・分担すること効果的かつ効率的な部署の運営を図る。</p> <p>①-1 企業訪問、新規開拓</p> <p>内定先への挨拶や求人打ち合わせなど、従来ここにおこなっていたものを分担或いは共同で行うことで業務に一体感を出し、効率的な運営を図る。</p> <p>①-2 就職イベント、講座等の共同開催</p> <p>企業セミナー、各種講座などで学部、短大の種別を限りなく廃止、可能な限り共通化し、効率化と学生同士の交流を図る。</p> <p>①-3 駒込・坂戸間の学生相互利用</p> <p>埼玉方面の短大生には坂戸就職課の利用、就職活動で東京を経由する学生は短大就職課の利用をアナウンスし、校舎に関わりなく同様のサービスを提供する。</p> <p>①-4 就職関係書類の共通化</p> <p>短大・学部で異なる書類の形式を統一（例：履歴書や各種報告書類など）し、担当職員のみならず学生サービスの向上を図る。</p> <p>②2023 年卒学生のキャリアプログラム参加率が低かったことから、参加率アップの取組みを実施する。</p> <p>②-1 就職支援機会の増加</p>	<p>坂戸教務学生部（坂戸就職課）</p>

			<p>5限に実施していた支援を1限～4限に変更、学年ごとに実施していた支援を学科単位に変更して実施する。また、初級～上級等、学生のレベルに合わせた支援を行う。</p> <p>②-2 弱みを強みに変えるプログラムの実施</p> <p>アンケート、アセスメントテスト等で学生が苦手としている項目について強化を目的とした講座を実施する。</p>	
--	--	--	---	--

(2) 女子栄養大学短期大学部

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
<p>【カリキュラム改革】</p> <p>①カリキュラムのスリム化</p> <p>②卒業に繋げる単位取得のための指導</p>	<p>教学 B-1</p>		<p>①資格取得以外の科目の必要性を淘汰し、スリム化を図る。</p> <p>②教務が目標とする入学した学生を卒業に導くためにはオリエンテーション・ガイダンスだけではなく細かな指導が必要となるため成績不良者に対するフォローについて情報共有し効率化を図る。なお、学生個々の環境も異なることから対応については十分に注意する必要があるが、学生の進路に繋げるためにも就職担当者との連携は必修となる。</p>	<p>駒込教務学生部</p>
<p>【学生支援拡大】</p> <p>大学・短大間では、業務の親和性が非常に高く、共通項目での仕事が多い。双方の業務を洗い出し、可能な部分を選択・集中・分担することで効果的かつ効率的な部署の運営を図る。</p>	<p>教学 A-9、B-2</p>		<p>①企業訪問、新規開拓</p> <p>内定先への挨拶や求人打ち合わせなど、従来個々に行っていたものを分担或いは協働で行うことで業務に一体感を出し、効率的な運営を図る。</p> <p>②就職イベント、講座等の共同開催</p> <p>企業セミナー、各種講座などで学部、短大の種別を限りなく廃し、可能な限り共通化し、効率化と学生同士の交流を図る。</p> <p>③駒込・坂戸間の学生相互利用</p> <p>埼玉方面の短大生には坂戸就職課の利用、就職活動で東京を経由する学生には短大就職担当の利用をアナウンスし、校舎に関わりなく同様のサービスを提供する。</p> <p>④就職関係書類の共通化</p> <p>短大・学部で異なる書類の形式を統一（例：履歴書や各種報告書類など）し、担当職員のみならず学生サービスの向上を図る。</p>	<p>駒込教務学生部（駒込就職課）</p>
<p>【学生支援拡大】</p> <p>2年間という短い期間でもキャリア目標を設定し、自己分析を深めて行く機会を増やす。</p>	<p>教学 B-2</p>		<p>①卒業生によるキャリアガイダンスの設定</p> <p>栄養士、栄養士以外の途を選択した卒業生との接点を増やし、自らの将来像をイメージするヒントを提供。</p> <p>②栄養学部生や他校生との交流機会をつくる</p> <p>自校以外の価値観に触れ、相互に刺激を受けあうことで、より良いキャリアを選択できるような機会とする。</p>	<p>同上</p>

<p>【学生支援拡大】 学生生活環境の充実を図り、早急に着手する必要があるが、時期的な事項については次年度に向けて取り組んでいく。</p>	<p>教学 B-2</p>		<p>①奨学金等学生の経済的面に係るフォロー体制づくりについて、課内年員で対応できるようにする。 ・日本学生支援機構（給付も含む）、横巻のぶ記念奨学金、北郁子奨学基金奨学金等 ②クラブについて ・クラブ室の充実 この数年使用できなかったクラブ室が使用可能となったことから、部室を一新し学生が活動できるような環境にする。 ・クラブの整備 新年度に向けて活動するクラブを整備する。 ③駒込祭について 駒込祭実施に向けた準備として、今年度内に現1年生に対してテーマの決定から次年度新入生に対して円滑にできるようになるためにマニュアル等の作成を側面からフォローしていく。</p>	<p>駒込教務学生部</p>
<p>【学生支援拡大】 ①図書館で採用している図書分類法を日本十進分類法新訂10版への移行 ②図書館資料の利用促進</p>	<p>教学 B-2 B-3 B-2</p>		<p>①昨年度に引き続き、本学で採用している日本十進分類法新訂7版（1961年刊行）から最新の最新の新訂10版（2014年刊行）へ移行し、現在の社会情勢を反映した図書の分類に切り替えることによって、利用者の利便性をさらに高める。 ②資料の貸出・館内利用を促進する。豊富な資料をより活用した自習・グループ学習ができるよう促していく。 また、専門分野に関連する資料に加え、教養的な資料、社会人になるにあたって必要な知識などについても合わせて紹介する。紙の本だけでなく非来館利用できる電子書籍についてもひろく周知していく。具体的な方法としては、ミニガイド、企画展示による資料紹介や館内サインの拡充を実施予定。</p>	<p>図書館（大学図書館課・駒込図書館課） 図書館（駒込図書館課）</p>
<p>【学生支援拡大】 ①学生ポータルシステムの活用 ②チャットボット利用定着</p>	<p>教学 B-2</p>		<p>①不確実なメール通知に頼らない事務部署等からの一斉通知手段として、利用を促進する。また紙媒体による掲示を極力電子化し、ポータルシステム経由で閲覧する運用手順を構築する。 ②必要な情報に到達するための入り口としてコンテンツを整備し、チャットボット登録場所（出現場所）を再考する。</p>	<p>情報・ネットワーク課</p>
<p>【FD/SDの充実】 ①情報セキュリティ教育（e-Learning）の実施</p>	<p>教学 B-3</p>		<p>情報セキュリティ基礎の e-Learning 研修を実施する。</p>	<p>総務課、情報ネットワーク課</p>

(3) 香川調理製菓専門学校

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
<p>【カリキュラム改革】①カリキュラム・授業(実習・座学)内容を検討し、新カリキュラムを作成・学則変更の届け出の準備をおこなう。他校との差別化を図りつつ、効率的な運営・教育効果があがる内容とする。</p> <p>②各学科定員の生徒を確保し、財務状況の改善と安定的な学校経営を実現させる</p> <p>③就職先企業との連携強化(企業奨学金の拡大・特別授業担当の拡大)・企業奨学金協力企業を4年後には30社を目標・連携強化企業からの特別講師を派遣する回数を多くしていただき、連携を強める。現在不十分である企業訪問を積極的におこなう</p> <p>【学生支援拡大】</p> <p>①学習支援・全員卒業を目標とする。退学者の削減をおこなう。</p> <p>日常の調理・製菓実習のデモの様子を撮影・動画配信し、自宅学習の補助とする。</p> <p>②生活指導と保護者との連携強化・挨拶、手洗い、身だしなみの指導徹底で学校評価と就職率向上に繋げる。</p> <p>保護者との関係・連絡体制(面談会・cocoメール他)を継続実施し、さらに信頼関係を強化する。保護者会の開催を年2回から3回に増やす。オンラインも活用する・教職員全員で「心の悩み研修」などを受講し、生徒対応に役立たせる。</p> <p>③就職指導・支援・就職内定率100%目標・就職状況を広くHP等で広報する。新たに卒業生支援のための方策を開始する。卒業生への情報発信の構築・離職者の相談・中途採用情報の発信などを行い、数年後には1000名規模のネットワークとなるようにする。</p> <p>④香流会・香流会の活動継続とグルメガイドブックの有効活用・HPへの掲載</p> <p>【FD/SDの充実】</p> <p>①中期計画の方針に従い、香川調理製菓専門学校の将来像について共通理解する。</p>	<p>教学 C-1</p>		<p>①教育効果を下げない効率的なカリキュラムの削減案を作成し、学校関係者評価委員会・教育課程評価委員会・学校教員会議・教員部会等で審議をおこなう</p> <p>②各学科すべての定員確保を目指す。</p> <p>③協力企業が現在8社から、4社追加し年度内12社を目標とする。</p> <p>①退学者5名以内を目標とする。</p> <p>②挨拶、手洗い、身だしなみの指導徹底を年間通じて実施する保護者との関係・連絡体制(面談会・cocoメール他)を継続実施し、保護者会の開催を年2回から3回に増やことを検討する。</p> <p>③就職内定率100%を目標とする</p> <p>卒業生支援を新規に開始し、調理・製菓の人材バンクを目標とする</p> <p>④現在は冊子のみであるが、HPに掲載することにより、より多くの方にも知られる機会をつくる</p> <p>①中期計画の方針に従い、香川調理製菓専門学校の将来像について共通理解を図る。</p>	<p>駒込教務学生部(専門学校教務学生課)</p>

<p>②教員の研修参加を積極的に促し、個々の能力向上を継続させる</p> <p>③年功序列でなく、実行力・責任感・リーダーシップを考慮し、設置基準に準拠した5年後を見据えた組織作り（教員配置）をおこなう。</p>			<p>③教職員の人数が減った時に、日々の教育運営をどのように実施するか知恵をだしあう。業務改革のチャンスと前向きにとらえ経営基盤の安定・教育内容のさらなる授実のための施策を検討する。</p>	
<p>【教育支援拡大】</p> <p>①図書館で採用している図書分類法を日本十進分類法新訂10版への移行</p> <p>②図書館資料の利用促進</p>	<p>教学 C-2</p>		<p>①昨年度に引き続き、本学で採用している日本十進分類法新訂7版（1961年刊行）から最新の最新の新訂10版（2014年刊行）へ移行し、現在の社会情勢を反映した図書の分類に切り替えることによって、利用者の利便性をさらに高める。</p> <p>②資料の貸出・館内利用を促進する。豊富な資料をより活用した自習・グループ学修ができるよう促していく。</p> <p>また、専門分野に関連する資料に加え、教養的な資料、社会人になるにあたって必要な知識などについても合わせて紹介する。紙の本だけでなく非来館利用できる電子書籍についてもひろく周知していく。具体的な方法としては、ミニガイドランス、企画展示による資料紹介や館内サインの拡充を実施予定。</p>	<p>図書館（大学図書館課・駒込図書館課）</p> <p>図書館（駒込図書館課）</p>
<p>【学生支援拡大】</p> <p>①学生ポータルシステムの活用</p> <p>②チャットボット利用定着</p>	<p>教学 C-2</p>		<p>①不確実なメール通知に頼らない事務部署等からの一斉通知手段として、利用を促進する。また紙媒体による掲示を極力電子化し、ポータルシステム経由で閲覧する運用手順を構築する。</p> <p>②必要な情報に到達するための入り口としてコンテンツを整備し、チャットボット登録場所（出現場所）を再考する。</p>	<p>情報・ネットワーク課</p>
<p>【FD/SDの充実】</p> <p>①情報セキュリティ教育（e-Learning）の実施</p>	<p>教学 C-3</p>		<p>情報セキュリティ基礎の e-Learning 研修を実施する。</p>	<p>総務課、情報・ネットワーク課</p>

2 法人改革

(1) 人材育成と組織体制の整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
①「人材育成ビジョン」を踏まえた体系的 SD 研修の計画と実施	法人 A-1		本学職員が各ステージ(階層別)で求められる能力を習得、研鑽し成長するための体系的な SD 研修を計画する	総務部(総務課)
②自己目標・評価シートの実施	法人 A-1		「業務移管する自己目標・評価シート」を作成しトライアル実施を通じ有効かつ継続して実施できる様式に整え自己成長を実現するための仕組みを作る	同上
③人事考課制度の導入	法人 A-1		職員の待遇面での公平性をはかり、個々人のモチベーションを引き上げることがを目的に人事考課制度を導入する。	同上
④採用、昇格など人事関係の規程化	法人 A-2		内規で運用している取り扱いを規程化し、公表する。ことにより、人事の明確化をはかる。	同上
⑤諸規定の見直しと整備	法人 A-2		就業規則、育児休業規程等の改定を実施する。法改正に合わせ規程改定が実施できる体制の検討(外部委託などの検討)	同上
⑥第二期中期計画の中間評価を実施する。	教学 A-11、法人 A-2 、C-1		第二期中期計画も中間期を経る為、中期計画の中間評価を実施し PDCA 体制構築の一助とする。	将来構想委員会
⑦綾栄会規約を整備する。	法人 A-2、C-1		綾栄会規約の一部改定を実施し綾栄会募金推進委員会を設置する。	秘書・企画課

(2) 附帯・補助活動事業および収益事業の整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
【附帯事業】 ①プランタン ・安全で美味しい菓子・パンを作りお客様に提供し、食生活が豊になる為の手助けとなる店舗を目指す。 ・製菓科の附置教育機関とし、生徒に対して洋菓子・パン製造業務、販売員の職業意識を持たせる。	法人 B-1	・年間売上目標 3800 万 (目標数値) ・日商 10 万 ・月上平均 250 万	①プランタン ・新製品の開発と、販売促進を検討して、時代のニーズにあった製品を作り販売。 栄養・健康を考えた製品を開発し、香川栄養学園ならではの店舗を目指す。	プランタン

<ul style="list-style-type: none"> ・専門学校の広報として、高校生を中心とした志願者獲得に繋がる組織とする。 ・学園内組織として、学内で使用する接待用菓子、贈答品などの製作。 ・学園の施設として多くの皆さんに認識して頂き、情報の発信をして、社会連携・学園の広報の一環としての事業。 <p>②附帯事業部の組織の見直し</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・一日の来店者数 80人 ・イベント・接待伝票など 800万 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの参加（若葉祭、駒込祭など）学園広報と協力して活動。 ・プランタン実習を通じて、生徒の職業意識を高める。卒業後に、企業の戦力になる人材を育てる。 ・近隣のお客様に愛される店舗を目指し、リピータ率を高めて、愛される製品や・好感が持てるサービスを心掛ける。 ・産学連携事業に取り組む ・国連関係への募金を兼ねた特別企画募金の実施 ・フードロス削減（フーボの活用） <p>②収益向上のための附帯事業部全体を見通す組織の見直しとマネジメント体制強化</p>	<p>総務課</p>
<p>③松柏軒グループ・松柏軒グループあるべき姿</p> <p>～当たり前前が当たり前出来る職場作りを目指す～</p> <p>3カ年計画の実施、ゼロベースラインを目指す。（黒字化を目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セクションごとの施策（カフェテリア） 	<p>法人 B-1</p>	<p>目標年度売上 10%増</p> <p>毎月 1 回実施</p>	<p>①松柏軒グループ【3C プロジェクト】を中心とした盤石な土台づくり【3C プロジェクト】</p> <p>1C: Customer Satisfaction/お客様満足度の向上</p> <p>2C: Challeng/新しいことに挑戦し学びを得る</p> <p>3C: Change/考え、気づき、行動し、成長するチームの構築</p> <p>②職場の仕組作りと徹底した人材の育成</p> <p>③収入確保と徹底したコスト管理</p> <p>①カフェテリア（駒込・坂戸）販売価格の見直し</p> <p>②総菜販売の拡充</p> <p>③学生が喜ぶデザート販売の実施</p> <p>④当学園のブランド力を活かした商品開発</p>	<p>松柏軒グループ</p>

<p>セクションごとの施策（松柏軒）</p> <p>セクションごとの施策（フード・サプライ）</p>		<p>目標材料費</p> <p>（坂戸）15%削減</p> <p>（駒込）2%削減</p> <p>毎月1回の実施</p> <p>目標材料費2%削減</p>	<p>⑤坂戸農園との連携</p> <p>⑥人員の最適化</p> <p>⑦原価系コストの見直し及び取引企業様見直し</p> <p>①取引企業の見直し</p> <p>②メニューのリニューアル</p> <p>③総菜販売の拡充</p> <p>④地元商店会とのコラボ企画の実施</p> <p>⑤SNSを活用した情報発信</p> <p>⑥徹底した無駄の排除（原価に関する意識改革）</p> <p>⑦ランクアップメニュー、オプションメニューの開発</p> <p>⑧原価系コスト削減（食材、飲材）</p> <p>⑨エネルギー系コストの削減（電気、ガス、水、度、ガソリン）</p> <p>⑩坂戸農園との連携</p> <p>①取引企業の見直し</p> <p>②配送費の撤廃</p> <p>③使用食材の価格交渉</p> <p>④過去実績との比較</p> <p>⑤競合他社との見積比較</p> <p>⑥市場調査</p> <p>⑦人員の最適化</p> <p>⑧フードサプライの立ち位置と今後</p>	
<p>【収益事業】</p> <p>①代理部（サムシング）</p> <p>事務処理の効率化</p>	<p>法人 B-1</p>		<p>店頭レジと反映させ、学内伝票（研究室購入分）処理の電子化を進める。</p>	<p>代理部</p>

<p>②出版部</p> <p>3ヵ年計画の見直しを実施し黒字化を目指す。</p>		<p>経常利益</p> <p>△700万円</p>	<p>②-①『栄養と料理』7月号からのリニューアルにより、実売3000部を目指す</p> <p>②SNS発信を活性化し、マーケティング強化を図り、『栄養と料理』をはじめ出版物を広く認知させる仕組みづくりを行う。</p> <p>③製作費の圧縮を図り広告費を捻出するなど、計画的な予算配分</p> <p>④『栄養と料理』の広告受注を伸ばすとともに、クライアントへの書籍、雑誌の売り込みを図る。</p>	<p>出版部</p>
<p>【生涯学習】</p> <p>①新型コロナ感染症拡大前の受講者に戻す (新審査基準(2022年)の周知徹底)</p> <p>②WEB広告による新たな受験者の開拓</p> <p>③新規団体受験校や企業の団体受講を開拓</p> <p>④自治体検定の営業を継続</p> <p>⑤新規検定試験の開発に着手する</p>	<p>法人B-1</p>	<p>志願者数</p> <p>4730名目標</p>	<p>①昨年度からの審査基準を一部変更(1級の受験制限廃止、二次試験の事前公表問題が全級1問)したことで、試験対策を容易とした。したがって、受験生の利便性がより高まったことを周知し受験生を確保する。</p> <p>②個人受験は、自宅、CBTテストセンター、提携会場での受験が可能となった(団体会場を利用せずに受験できるため、団体の負担が減少)。WEB(Twitter、YouTubeに加え、Instagram等)での広報を充実し、婚活サイト、料理初心者を対象としたサイトへの広報などを強化して新たな受験者の開拓を促進する。</p> <p>③栄養士・管理栄養士養成校に加え、中学校・高等学校の調理部、家庭科部、生涯学習センターの通信教育受講生等にDMを送付し、到達度の確認のツールとして、学生・生徒の受験を促進する。また、オンラインでの教員対象料検説明会に加えて、リアルでの説明会を東京と大阪で実施する。</p> <p>④江東区家庭料理検定に続く、自治体検定の採用自治体を引き続き開拓する。</p> <p>⑤現在のシステムを活かして、新規の検定試験の開発に着手する。</p>	<p>生涯学習センター (家庭料理技能検定課)</p>
<p>①オンライン通信講座2講座を5月に開講する</p> <p>②既存講座の募集を新たに模索し、受講生のV字回復を促進</p> <p>③管理栄養士国家試験関連講座の売上増を目指す</p> <p>④学校部の学生募集の後方支援、出版部の売上に貢献する。</p> <p>⑤香川料理教室は、コロナ対策としてVOD講座を開発し、対面講座と併用する。</p> <p>⑥対面型講座は、VOD講座に移行を図る。</p>	<p>法人B-1</p>	<p>オンライン講座</p> <p>申込者数</p> <p>500名目標</p> <p>栄養と料理講座</p> <p>申込者数</p> <p>870名目標</p>	<p>①「女子栄養大学ヘルシー食事学」「食と健康」 (共に文部科学省認定申請中)</p>	<p>生涯学習センター (生涯学習課)</p>

⑦「栄養と料理一般講座」の改訂準備に入る。		管理栄養士関連講座 売上目標 3000 万	
-----------------------	--	--------------------------	--

(3) ガバナンス・情報公開の整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
①私立学校法改正に対応する為、寄附行為および関連規程を整備する。	法人 C-1		①私立学校法改正に準拠した寄附行為を制定する為、文科省に認可申請を行う。また、関連する規程についても順次見直しを実施する。	総務部(秘書・企画課)
②私立学校法改正に対応した情報公表ルール化の改訂および関連規程の整備を行う。	法人 C-1		②学園 HP の改訂に伴い情報公表のルールの見直しおよび関連規程の整備を実施する。	秘書・企画課、財務課 学園広報課

(4) 危機管理体制の整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
【防災管理】 ①防災対策・防災管理体制の整理、整備等の再構築事業	法人 C-1		①防災対策管理規程、防災計画、防災対策会議・委員会、管理者等の見直し 特に、有事の本部機能確立方法と情報収集方法の構築に重点を置く	管理部、防災対策会議、防災管理委員会
【危機管理(情報セキュリティ)】 ①標的型攻撃メール訓練定期実施 ②EDR(Endpoint Detection and Response)の稼働 ③Microsoft365 多要素認証への切り替え ④Azure AD Application Proxyの本稼働開始		①2 回/年度 ②12 月までに稼働 ③必須化 ④一般公開しているもの以外全てを移行	①情報セキュリティに関わる危機管理の一環として標的型攻撃メール訓練を定期的実施する。 ②情報漏洩対策の強化のため、現状のウイルス対策ソフト(EPP)に加えて PC の不審な動作を検知してブロックする仕組み(EDR)を稼働させる。 ③Microsoft365 の多要素認証を活用し、メール等のアカウント乗っ取り対策を強化する。 ④不正アクセス対策強化のため、インターネットに直接開放している各サービスについて、支障のないもの限り Azure AD Application Proxy を経由するよう経路を変更する。	情報・ネットワーク課

(5) 校舎・施設整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
【施設維持・計画修繕事業】 ①経費削減の折、施設の維持に最小限必要な設備更新、修繕事業	法人 D-1、D-2		①経年更新や法的是正が必要な空調設備、衛生設備、消防設備のみ	

<p>【キャンパス環境改善事業】</p> <p>②機器等の更新により、ランニングコスト削減につながる事業</p> <p>③機器等の更新により、リスク回避につながる事業</p> <p>④運用の変更に起因する、インフラの整備事業</p> <p>⑤未利用または稼働率の低い教室等の有効活用事業</p> <p>【駒込キャンパス再整備事業】</p> <p>⑥敷地や既存建物等の基礎調査および手続き等準備事業</p>			<p>②照明器具のLED化</p> <p>③アスベスト対策（アスベスト含有リスクのある実験台天板の交換） 経年による教育用音響映像機器、その他教育機器の更新</p> <p>④教育用 iPad の充電環境の整備</p> <p>⑤情報収集、棚卸等の準備、検討</p> <p>⑥地盤ボーリング調査、設備インフラ調査、RI 廃止手続き</p>	<p>管理部、施設整備委員会</p> <p>管理部、施設整備委員会</p> <p>管理部</p>
--	--	--	---	--

(6) 卒業生とのネットワーク・社会連携

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
<p>【卒業生】</p> <p>香友会館運営協議会を改編し香友会との連携深化を諮る。</p> <p>【社会連携活動】</p> <p>①建学の理念に基づいた社会連携・社会貢献活動の推進・発信</p> <p>②募金事業を活性化する為、返礼品付募金を新設する。</p>	法人 E-1		<p>香友会館運営協議会を発展に解散し新たに香友会との協議会を設置し関係深化を諮る。</p> <p>①本学の持つ教育・研究の知見を地域・社会に還元し、その発展に寄与すると共に、学生・生徒の取組への参加を通じて、社会連携・社会貢献活動に関わり、実学教育の場における実践力の養成に繋がる取組を行う。</p> <p>それらの取組を各学科や教員情報と結び付け、HP・SNS等を通して最新の情報を発信していく。</p> <p>②教育研究・施設設備の充実及び奨学金の充実を用途として募集している個人よりの募金ついて返礼品を提供する。</p>	<p>秘書・企画課</p> <p>社会連携課</p> <p>学園広報課</p> <p>社会連携推進委員会</p> <p>秘書・企画課（綾栄会）</p>

3 財政改革

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
<p>【財源確保】</p> <p>①従来の予算編成基準の見直しを図る</p> <p>②学納金に依存する収入構造の改善を図る</p> <p>③外部資金、競争的資金の獲得のため、従来のシステムの見直しを図る</p>	<p>財政 A-1</p> <p>財政 A-2</p> <p>財政 A-3</p>		<p>①学費改訂や入学者減による減収に伴い、経費削減はもとより支出抑制を全ての支出項目で行い、プライオリティーを付した予算とし執行管理をする。</p> <p>②コロナ禍の終息に伴い、事業部、付帯事業部の活性を促し、2018年度実績ベースまで戻すことを目標とする。</p> <p>③補助金対象項目の見直し、研究活動の推進により連携事業の獲得、科研費</p>	経理部

への申請増を図るなど、外部資金の獲得を目指す。

予算編成にあたって

学園を取り巻く社会環境は、ますます厳しさを増しています。2021年度制定の学校法人香川栄養学園第二期中期計画では、100周年の将来像として、「安定した運営」を目指し、①安定した財政運営の学園②将来構想を実現できる基盤を備えた学園を目指しています。

第二期中期計画の3本柱、「教育改革」「法人改革」「財政改革」を策定し、その改革を実行して3年目となる2023年度は、中期計画の中間期を迎え改革の成果が現れ、また停滞している目標の見直しをする年となります。

2023年度に大きく変更するのが、学費改定です。18歳人口の減少や食物系大学の人気の低迷、大規模大学の移転による影響などで、少しでも競争力をつけるために大学の学費を10万円から15万円の幅で値下げすることを決定しました。これは学園の永続を睨み、尚且つ教育の質の低下を招かないぎりぎりの線を選択することにした結果です。

学園は2023年度に創立90周年を迎えます。学園はこの間多くの学生・生徒を世に送り出すと同時に様々な事業を通じて「食により人間の健康の維持・改善を図る」という建学の精神の具現化を図ってきました。本学が学生・生徒や社会に対してこれまで果たしてきた役割は非常に大きいものでありました。コロナ禍からの脱却から世界が日常を取り戻す兆しを見せ始めた矢先のロシアによるウクライナ侵攻とそれに伴うエネルギー危機、世界的なインフレや急速な円安等、予算圧縮に対しては完全に逆風といえる状況下ではありますが、学園がこれからも存続して永きに渡り使命を果たし続けるためには健全な財政は必要不可欠なものであることをもとに予算編成を行いました。

学校法人として財務体質を強化し、中長期的な財政見通しに基づき安定的財政基盤を確立する方針としました。

1. 収入

- (1) 学生数策定にかかる方針に基づいて学生の受け入れを確実にし、学生生徒等納付金の安定的確保を図る。
- (2) 経常的収入における学生生徒等納付金の依存度が依然として高いことから、収入源泉の多様化を積極的に進める。特に受託研究、共同研究を拡大するなど、外部資金導入を推進する。
- (3) 募金推進体制を強化し、寄付金の受け入れの拡大を図る。
- (4) 栄養と食に関する専門的教育機関としての「知」を広く社会に還元するための仕組みを強化し、これに基づく事業収入の増加を図る。

2. 支出

- (1) 支出の大半を占める人件費及び教育研究経費支出の効率性を確保する観点から、教育の質的改善、研究の重点化を進めるとともに香川栄養学園のブランド化に資する事業に対して選択と集中を進める。
- (2) 教育効果や研究成果の高い事業にインセンティブを与え予算を重点的に配分する。
- (3) 新規事業の実施については、事業のスクラップ&ビルドを原則とし、対費用効果を厳正に評価する。
- (4) 経常的経費については、責任者のもとで業務の適正化や計画の効率化を図り、支出の節減を図る。

3. 成果の検証

2023年度事業計画の実行後、責任者が予算実行の状況と成果を把握し、理事会へ報告する。その結果は翌年度以降の予算編成に反映させる。

注) : 中期計画コード : 中期計画の区分A・B・Cと区分下の1・2・3を組み合わせた符号をコードと呼ぶ